鑑賞の授業についての考え方

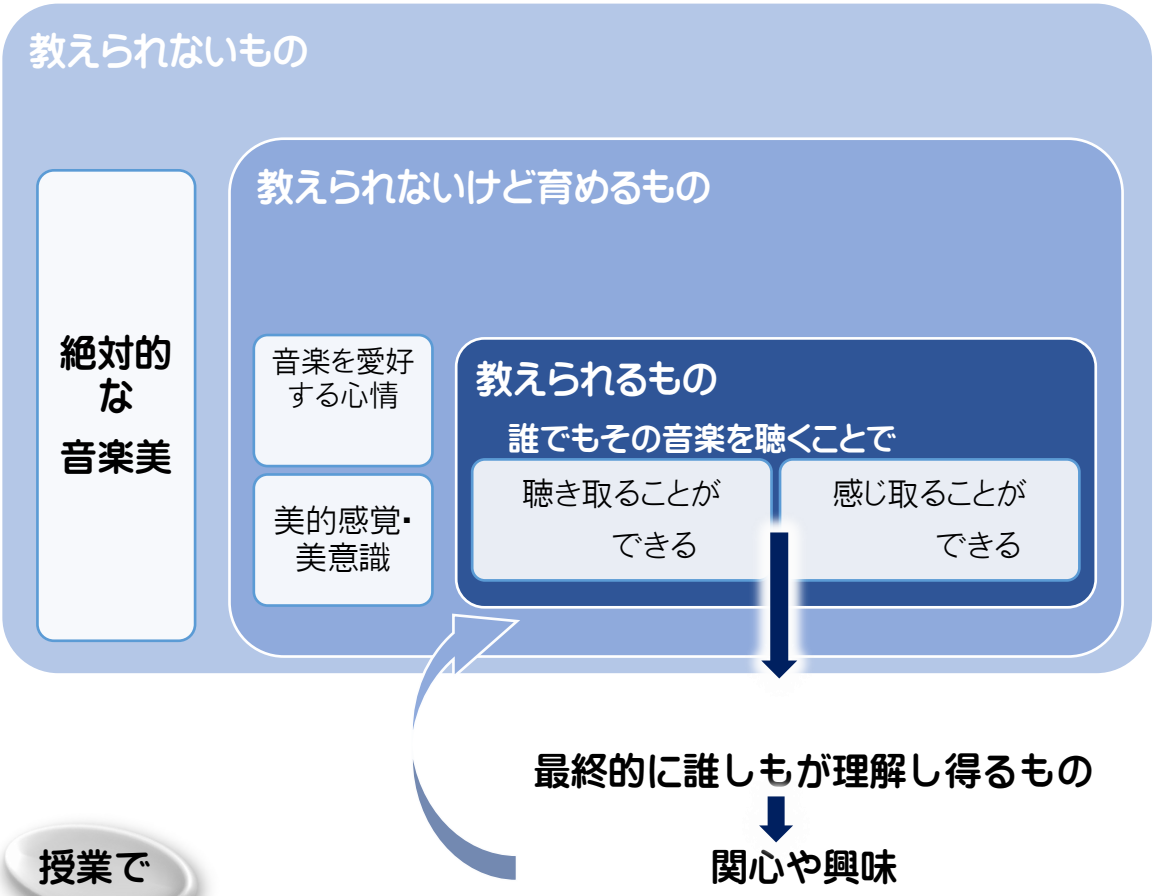
鑑賞だと生徒がノッてこない？
鑑賞は評価しづらい？

理由は

♪「音楽そのものの美しさを全員に味わわせたい！」などと大きすぎる目標を持っているから！

♪　自分自身が明確な考えをもって、評価の目的と基準を持っていないから

★　そもそも鑑賞の授業で何を教える？教えられる？



・「聴く」という行為は本来絶対的に個人的なもの。

・「美しいと感じなさい」と教えるのはナンセンスだし不可能。生徒自身感じなければ無意味。

*・教えなければならないのは**何なのか**を明確に。*

授業で

教えられるものを明確に教え、音楽への関心や興味につなげる**プロセスこそが鑑賞指導。**
指導によってどれくらい自分から積極的に音楽を聴くようになったのかが大切。

□１年間（３年間）のカリキュラムの中で、鑑賞の授業の中で何を教えるのかを明確にすること。
□教材は「音そのもの」であるから、「教えたいこと」が生徒にとって理解しやすい教材を使用する。
□「教えられること」が「音楽」という大きな存在の一部分であることを理解する。
□存在の一部分を教えているのであるから、聴き取ったり感じ取ったりして生徒が表出するのも、当然その生徒のもっている能力の一つの側面。

自分自身が明確な論理をもって評価の目的と基準を定め、授業を通してそれを納得してもらうように努力すること